

問われているのは、
この国のあり方だ

東京上空300メートル

六本木、横田、沖縄――調査報道が突き止めた、
日本で続く「米軍特権」の正体

監督・撮影・編集：大塚敦｜ナレーター：武田真一｜取材・撮影：大場弘行｜編集：加藤隆寛｜音響効果：細見浩三
カラー・グレーディング：堀井威久麿｜整音：長部彰｜スタジオコーディネート：高橋勝｜ポスターデザイン：宮崎ルー
ホームページ制作：金澤竜也　松川沙弥香｜パンフレット編集：糟谷雅章　宣伝：河原有希子　配給協力：ポレポレ東中野
プロデューサー：銭場裕司、大塚敦
日本｜110分｜ドキュメンタリー映画｜DCP 5.1ch｜©2026 大塚敦・毎日新聞社

G
映倫
125674

ヘリ飛び交う「米軍特権」を問う

新聞社が手がけた異例のドキュメンタリー映画



東京都心を飛行する米軍ヘリ ©2026 大壜敦／毎日新聞社

毎日新聞 取材班デスク・銭場裕司プロデューサー

取材した情報をどのようにして届けるか、伝え方を模索する中での挑戦です。映画を通して、調査報道に取り組む記者たちの息づかいも感じていただければありがたいです。

本作は、東京・六本木の米軍施設「赤坂プレスセンター」と東京西部にある横田基地、そして基地が集中する沖縄を主な舞台として展開する。



第１章「日本の空は誰のものなのか」

東京都心で米軍ヘリの問題に迫った記者たちの調査報道を軸に描く。見えてきたのは、日本のヘリであれば許されぬ飛行実態だった。東京・町田市（1964 年）や沖縄国際大（2004 年）で起きた過去の事故なども織り交ぜながら、戦後 81 年を迎えても変わらぬこの国の姿をあぶり出す。



第２章「誰が犯人を逃がしているのか？」

群馬県で起きたジラード事件などから日米密約の問題をひもとき、深刻な被害がなくならない米兵による性暴力と日本政府の姿勢を見つめる。2023 年 12 月に米空軍兵が 16 歳未満の少女を誘拐し、性的暴行を加えた事件では、県民にその情報が知らされなかった。抗議集会で官僚たちが語ったことは。



第３章「米軍基地は誰のためにあるのか？」

基地問題と向き合う市民らの思いに耳を傾け、終章「星条旗と日本人」につなげる。「日米同盟」の名の下、放置されてきたこの国の“当たり前”を問い直す。

調査報道「特権を問う」とは

東京都心で約半年に及ぶ撮影を敢行し、米軍ヘリが日本のヘリであれば違法に当たる高度で繰り返し飛んでいる実態をスクープ。取材を続けて、首都圏における飛行実態なども明らかにした。証拠映像を配信する新しいスタイルの調査報道に挑戦してきたことが、映画製作にもつながった。空の問題にとどまらず、地位協定に関わる幅広いテーマを追いかけ、100 本を超える記事を送り出している。2022 年に新聞労連ジャーナリズム大賞を受賞した。

大壜敦監督から

ひとりの記者がつぶやいた「日米地位協定について取材し記事を書いていると、まるで暗闇に石を投げているみたいだ」という一言に、本作が完成した今、あらためて深く共感する自分がいます。日米地位協定について考えるすべての人たちへ、敬意を込めて本作を届けたいと願っています。（『春画と日本人』『スズさん　昭和の家事と家族の物語』『わたしたちの国立西洋美術館』を製作・監督）

10/17(土) より大阪公開

第七藝術劇場にて

第七藝術劇場
www.nanagei.com
mail : nanagei@nanagei.com
t e l : 06-6302-2073

